

## 平成 25 年度第 2 回 海岸工学委員会議事録案

開催日時：平成 25 年 11 月 13 日(水) 18:00～20:10

開催場所：九州大学医学部百年講堂中ホール 1

出席者：以下の 2 名の相談役，42 名の委員長，副委員長，幹事長，小委員長，副小委員長，委員，委員兼幹事

灘岡相談役，柴山相談役，佐藤委員長，青木副委員長，佐々木幹事長，岡安，渡部，森，重松，藤間の各小委員長，北野，田島，越村，川崎の各副小委員長，荒木，池谷，伊藤，太田，長谷部（大山代理），岡田，小野，柿沼，上月，齋藤，猿渡，丹治，津田，加藤（鳥居代理），西田，松浦，松本，水谷，宮武，松本（守屋代理）の各委員，小笠原，栗山，後藤，諏訪，武若，松山，森屋，八木，山城，横木の各委員兼幹事

資料：

- ・平成 25 年度第 2 回海岸工学委員会幹事会の議事（資料 1）
- ・「波動モデル研究小委員会」設置提案書（資料 2）
- ・パワーポイント資料（資料 3）

### ■議事前報告事項

#### 1. 前回議事録の確認→WEB に公開済み

編集小委員会副小委員長の交代（北野委員→田島委員）が報告された。

#### 2. 報告事項

- ・委員長指名の委員に川崎氏が就任（佐々木幹事長）
- ・編集副小委員長の交替について（佐々木幹事長）  
北野委員兼幹事から田島委員への交替が報告された。
- ・リエゾン委員等の派遣について（佐々木幹事長）  
社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討特別委員会：川崎委員  
水工学委員会委員派遣：八木委員  
環境賞選考委員派遣：上月委員  
出版委員会委員派遣：陸田委員
- ・土木学会 100 周年記念事業について(佐藤委員長)
  - ・土木学会の委員会で手を上げたのは海岸工学委員会だけだった。10 月 6 日（日）に，兵庫県南あわじ市にて，同事業の取組みとして津波防災フォーラムが開催された。
  - ・「沿岸防災意識の普及促進について」を伊豆で実施，参加が促された。

### ■審議・報告事項

#### 1. 海岸工学論文集第 60 巻の発刊状況や査読・編集の課題について（岡安小委員長・佐々木幹事長）

- ・ 第1段審査：登録論文数 403 編，審査通過論文数 303 編
- ・ 第2段審査：通過論文数 297 編（不採択 2 編，辞退 4 編）
- ・ 第2段審査以降（不採択 0 編，辞退 1 編），計 296 編が採択された。
- ・ JSTAGE 作業について、従来の BIB ファイルの作成から XML ファイルへ移行する。次年度から早速対応が始まる
- ・ 国際セッションについて、第 60 回も Proceedings という形で掲載。掲載数 19 投稿 21、不採択 1、最終段階での辞退 1
- ・ 論文査読の課題について、以下の内容が挙げられた
  - ・ 類似論文への対応，辞退者(4 編、最終的には 5 編)への対応など。
  - ・ 主査の役割：主査も査読を行い，副査結果を踏まえた上で，査読者コメントに矛盾が生じないように調整し最終判定をすること
  - ・ 今年度は B 判定を撤廃→従来の修正が必要な論文が A 判定になってしまうケースがあった。来年度は B 判定を復活するが，C 判定より締め切りを早く設定することで，組版が遅れないよう配慮する。
- ・ 論文編集の課題について，組版の質向上→業者の作業の確認，フォーマットの変更，通常号への投稿促進，国際セッションの活発化（過去 4 年の掲載数：15-11-18-21）などが挙げられた。
- ・ 著者負担金(35,000, 国際セッションは 20,000)と論文集価格(5,000)，通常号掲載からの発表申し込みを受け付け(負担金は 20,000)。今年度は通常号からの発表希望者なし。
- ・ 海岸工学論文集将来検討 WG の設置(顧問：佐藤、岡安、主査：北野、メンバー：渡部、川崎、原田、佐々木)→課題は①冊子体の存廃，②版下原稿の是非，③投稿システムの改善(最終原稿を投稿システムから投稿できるようにするなど)，J-STAGE の XML 化対応など。メンバーに現副編集小委員長(田島委員)が加わった方が方が良いのでは？→幹事長が検討して後日決定する。

## 2. 海岸工学論文賞・論文奨励賞選考について（佐々木幹事長）

- ・ ルールと選考方法(前年度と変更なし)を確認し承認された。その結果，以下の論文の受賞が決まり，承認された。

### 海岸工学論文賞

題目： 常磐沿岸域における底層環境・懸濁物動態に関する現地観測

著者： 八木 宏，杉松宏一，西 敬浩，川俣 茂，中山哲巖，宇田川 徹，鈴木 彰

題目： 波侯の統計学的特性とその応用について

著者： 木村 晃，大田隆夫

### 海岸工学論文奨励賞

題目： 任意の流速・浸水深を有する津波氾濫流の再現実験手法

筆頭著者： 太田一行（共著：木原直人，佐藤隆宏，高島大輔，松山昌史，吉井匠，田中伸和）

題目： 3次元 LBM 数値移動床の開発と掃流粒子群の挙動シミュレーション

筆頭著者： 賀 露露（共著：岡島雅史，喜岡渉，北野利一）

題目： GPS 波浪計を用いた南海トラフでの津波警報の過小評価の判定指標

筆頭著者： 門廻 充侍（共著：高橋 智幸，林 能成）

- ・ 論文賞，論文奨励賞ともに3編ずつ選ばれたが，論文賞の1編は辞退となった。

### 3. 第60回海岸工学講演会の実施状況について（山城委員兼幹事）

- ・ 記帳者数は516名，セッション参加者数のべ1,796名。（委員会開催時点）
- ・ 見学会(前日)には30名参加。シンポジウムにも多数参加。
- ・ トラブル：発表者が1名キャンセル(単著論文で本人が高熱だったことが判明)
- ・ 奨励賞受賞者は懇親会で授賞式をするが，受賞者は参加費を支払わなければならないのか問い合わせがあった→授賞式参加は義務ではないが，参加する際には参加費は支払うこと。

### 4. 第61回海岸工学講演会の準備状況について（水谷委員）

- ・ 実行委員の紹介（喜岡（委員長）・北野・小林（以上名工大），吉野（岐阜大），加藤・岡部（豊橋技科大），水谷・川崎・中村・菊（名大）
- ・ 会場はウインクあいち，見学会案(名古屋港，輪中の郷，長良川河口堰など)の紹介，予算(¥3,715,700-)

### 5. 第62回海岸工学講演会の準備状況について（佐々木幹事長）

- ・ 神奈川開催や都心開催も検討したが，候補地は決まっていない。

### 6. 企画構想WG報告書（2011）への対応について（佐藤委員長）

- ・ 以下の基本方針が提案され，詳細については今後執行部で具体化することと併せ，承認された。  
次年度から実施予定。
- ・ 英文も和文と同様に扱うものとし，英文でも査読アブストラクト2p+本論文5pの形式は維持。
- ・ 査読システムでは言語による区別はしない→査読意見は英語で。
- ・ 論文集は和英混在させ，現在の国際セッションは統合する。
- ・ CEJ掲載論文にも講演会での口頭発表を認め，CEJへの投稿数への影響が出ないように配慮
- ・ 発表のみのセッションを作り，現状の論文+発表300編→論文+発表280編+発表のみ40編を目安に変更。ただし，それぞれの編数は投稿状況を見て臨機応変に判断する。
- ・ 発表のみのセッションは二日目午後の懇親会前の2セッションを使い，発表6分，質疑4分とする。
- ・ 企画セッションや他学会連携セッション，優秀講演賞などの導入も検討し，発表のみのセッションの魅力向上を図る。
- ・ 査読用アブストラクトを公開するなどして活用(web掲載，USBなどの媒体を通じて参加者に配布など)。

- ・ 発表のみセッションには、予め発表のみを希望する論文を受けつける(第一次査読は同じシステムを利用)
- ・ 通常投稿で不採択となった論文からも適宜採択する。
- ・ 発表のみの場合、著者負担金は半額(発表時間も半分)とする。

本件に関する主な質疑

※次年度の名古屋での開催について、既に過去のプログラムを想定して会場の利用時間を確定している  
→現状案ではプログラムの時間枠に変更はない。

※他で発表したい場合にはどうなるか→2 ページアブストラクトには著者名が載らないので、既発表扱いとはならない。いずれにしても二重投稿にはならないように工夫。

※通常号へ奨励するなど、発表したことが他の論文への投稿への足枷とならないようにすべき

※申し込み数などの見込みは？→詳細は分析していないが、希望が少なくても現状の不採択(100 編程度)から回すだけでも意義があると考え

※英文投稿を期待しているのは、これまで proceedings に投稿してきた人達で、proceedings から Journal 扱いになるのは良い。

※企画構想 WG の元々の提案では、論文集での英語論文を可にする、としたが強い反対があった。当時の反対意見は CEJ への投稿数が減るのでは？という懸念があった。この点をもう一度確認したい。→今回は強い反対意見はなかった。

※発表のみのセッションを作ることに、他分野の論文を入れることは良い。二重投稿については心配いらなうだろう。

※CEJ について、海講と CEJ では完全に二重投稿となるが、両方とも発表できるということにするのであれば対等になり問題ない。また投稿論文も日本関連からの投稿は少なく、国際セッションからの論文が出てきたケースも少ないので、バッティングはしないと想定される。

※海講の方が出版時期を確実に想定できるので、同等であれば人気が出るかもしれない。

※海講論文集に掲載されるのは英語でも海外には出て行かない。海講はドメスティックなので、留学生は注意する必要がある。

※海岸工学は専門性の高い学会だった。世の中には学際系の講演会がたくさんあるが、海岸工学講演会もその方向に向かうのか？その場合は、緩い学際系の講演会のカルチャーに巻き込まれてしまうのでは？→大多数が通常投稿なので、高い専門性については心配していない。インターディシプリナリではだめでトランスディシプリナリまで踏み込むべき。

## 7. CEJ 小委員会報告 (渡部小委員長)

- ・ editor が約半数交替した。
- ・ 投稿数が少ない→IF にも期限があるので、特集号の論文を引用して積極的に投稿してほしい。
- ・ 故合田先生の最後の論文がメモリアルペーパーとして 12 月号に掲載される。
- ・ 2013 年は中国人が多かった(12 編)。日本人は 7 編、日本からの積極的な投稿を呼びかけ。
- ・ 海講に出した日本語論文を英訳して CEJ に投稿する件について、機械学会などでは和文で出したものは英文で受け付けられないという方向で進めている。他の国内学会でも同じ方向。→CEJ のポリシーをどうするか？→雑誌自体の評価も勘案すべき→CEJ で議論を続ける。

## 8. 各小委員会の活動について

- (1)広報小委員会（森小委員長）：活動状況の報告(災害関連の報告)、見学会の写真などを残す。アウトリーチの充実。
- (2)沿岸域（重松小委員長）：流域圏の物質輸送に関する実態評価の現状と課題 第四回を開催する。
- (3)津波（藤間共同委員長）：明日昼休みに小委員会、どのように締めるかを議論。昨日シンポジウム、80～90名の参加者。

## 9. 波動モデル研究小委員会の設置（柿沼委員）

- ・波動の理論体系、計算体系の整理、数理モデルの構築、シンポジウムの開催などを提案(資料あり)
- 設置が承認された（期間：2013年度～2014年度）。

## 10. 第49回（2013年度）、第50回（2014年度）水工学に関する夏期研修会について

### 第49回（北野委員兼幹事）

- ・B 111名、A 93名の参加。学生が少ない、参加費（13000、社会人16000）は減らしても良いのでは。
- ・参加者の所属地方のバランスはよい。スライドのコピーを希望する参加者が多い。

### 第50回（山城委員兼幹事）

- ・平成26年度の研修会について、2014年8/25、26の二日間にわたり九州工業大学 戸畑キャンパスで開催。テーマ案は「海岸・港湾に関する観測（と実験の）技術」、最新の観測技術の紹介や他分野の話、実験、九州特有の問題など。

## 11. フィリピン高潮災害への対応について（佐々木幹事長）

- ・海岸工学委員会→土木学会調査チームとして派遣することを大西専務理事が了解済み。
- ・田島委員・京大安田先生を中心にメンバーを集めて派遣することを提案し承認された。

## 12. 台湾海洋工学会との連携協定について（佐々木幹事長）

- ・台湾海洋工学会が海岸工学委員会および海洋開発委員会と委員会レベルのMOUの締結を希望
- ・海洋開発委員会はMOU案を承認済み
- ・11/21の台湾海洋工学会年次大会でMOUを締結予定→承認

## 13. APACについて（佐藤委員長、佐々木幹事長）

- ・2013年9月24日～26日インドネシア・バリ島にて開催
- ・Council chairに水口相談役が就任、Councilメンバーに喜岡相談役が就任（合田先生ご逝去に伴い）、Steering committeeメンバーに佐藤委員長が就任
- ・2015年はインド・チェンナイのインド工科大学で開催
- ・2017年は日本がホストかもしれない

次回、幹事会は2014年4月、委員会は同6月で追って日程調整。

記録（田島）